

授業科目名	レクリエーション概論	単位数	2
担当教員名	重藤 誠市郎	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。 ・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。 			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) レジャー・レクリエーションに関する基本的内容について理解する。 (2) 様々なレジャーやレクリエーションの活動について理解を深める。 (3) 実際にレクリエーションを体感し、その実施方法を習得することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>レクリエーションは、カタカナ英語として広く浸透しているが、多様な広がりを持ち、単に遊びや気晴らしを指す言葉ではない。原義としては「壊れたものを創り直す」ことであり、一時的に疲労から回復することを意味するようになった。そして、回復のための遊びや活動自体をレクリエーションと呼ぶようになった。今日の日本は、毎年約3万人もの自殺者を出すストレスフルな社会であり、我々にはレクリエーションは非常に重要で、欠かすことができない活動の一つといえよう。そこで本授業では、レクリエーションの基本的な内容や種類、方法を学び、自らが活用できるように講義を展開していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：古代から現代までのレジャー時間の捉え方</p> <p>第2回：レジャー活動とその広がり、レジャー経験の心理的効果とは</p> <p>第3回：レクリエーションの発展の歴史</p> <p>第4回：休日・休暇の活かし方、労働時間と余暇時間</p> <p>第5回：健康社会へ向けての取り組み</p> <p>第6回：ホイジンガやカイヨワによる遊びの定義、趣味のよろこび</p> <p>第7回：レジャー・レクリエーション活動（1）旅行・登山・キャンプ</p> <p>第8回：レジャー・レクリエーション活動（2）ギャンブル・ボランティア活動</p> <p>第9回：レジャー施設の現状と役割（1）テーマパーク・野外教育</p> <p>第10回：レジャー施設の現状と役割（2）自然保護への取り組み・国立公園</p> <p>第11回：福祉レクリエーション（1）高齢者のレクリエーション</p> <p>第12回：福祉レクリエーション（2）障害者のレクリエーション</p> <p>第13回：教育現場におけるレクリエーション</p> <p>第14回：レクリエーションの展開：コミュニケーション・ワーク</p> <p>第15回：目的・対象に合わせたレクリエーション・ワーク</p> <p>定期試験</p>			

スクーリングでの学修内容

第1回から第15回全ての内容を横断的に含む。

(主に、第13回から第15回の内容を含む。)

アクティブラーニングの手法を用いた授業展開を実施する。

教科書

澤村 博・近藤 克之 『これからのレジャー・レクリエーションー余暇社会に向けてー改訂3版』ポラーノ出版 2016年

参考文献

必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

スクーリング評価(25%)、レポート評価(25%)、科目修得試験(50%)を総合して評価する。